



開催報告

主 催 公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団

後 援 国立市

T E L 042-574-1512

info@kunitachibiennale.jp

概 要

(公財)くにたち文化・スポーツ振興財団は、公募による野外彫刻のコンペティションを主軸とした「くにたちアートビエンナーレ」を開催している。このアート事業について、また今後の展開に向けて、市民参加の元で意見交換を行い、様々な視点から得た知見を今後の事業に活かす為、「Kunitachi Talk Ground クロスチャット意見交換会」を開催した。

[日 時] 第1回：2018年09月07日（金）10：00～12：00
第2回：2018年09月08日（土）10：00～12：00
第3回：2018年09月12日（火）19：00～21：00

[場 所] くになち市民芸術小ホール アトリエ

[参加人数] のべ22人

テ ー マ

くにたちのアートのことを話そう

ク ロ ス チ ャ ッ ト の 進 め 方

全3回行ったクロスチャットは同内容で実施。冒頭に20分、公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団より「くにたちアートビエンナーレ」のこれまでの取り組みや国立市の現状について情報提供した上で、意見交換を始めた。

意見交換は円滑に進むようファシリテーター（議論の進行役）を配した上で座談会形式により実施。「現在の「くにたちアートビエンナーレ」をどう考えているか」「これからの「くにたちアートビエンナーレ」をどうしていきたいか」という投げ掛けを切り口に、意見交換を進めた。



全体のまとめ

全3回を通じて「くにたちアートビエンナーレ」の認知度が低い、という意見が多く挙がっていた。現状「くにたちアートビエンナーレ＝野外彫刻展」として事業を展開しているが、野外彫刻の目的や意義、設置場所（大学通り、さくら通り）の選定理由などが不明瞭のまま進んでいることから、市民不在のアート事業になってしまっているという意見に繋がっていた。特に野外彫刻は景観に強烈なインパクトを与える存在であることから、周辺環境に対しての影響を十分に配慮すべきだったという意見が強かった。

今年度は関連事業である参加型アートプログラム「Play me, I'm Yours」を実施した結果、大変な活況を呈したことが、参加者の中で好評を得ていた。一方で主幹事業として実施した第2回野外彫刻展は十分に認知されぬまま選定が進み、否定的な意見が膨らんだ要因となったようである。野外彫刻展は第3回以降の開催の是非や、開催する場合にはそのあり方について検討することが非常に重要である。

これらの意見を踏まえ、今後「くにたちアートビエンナーレ」を進めていく上で、市民がアートに自発的に関わっていく環境づくりが肝要であると考えられる。平成30年4月に施行された国立市文化芸術条例の内容に沿い、検討プロセス含め市民の参加を踏まえた、より広義のアート事業へと発展させていくことが求められているようである。その為にも、まずはなぜ国立の街でアート事業を行うのか、今一度その目的や意義を検討し、共有していくことが重要である。

また、国立市の様々な施策やまちづくりの横串にアート事業を繋げることが期待されていた。今回は市内のギャラリー関係者が複数名参加したが、「くにたちアートビエンナーレ」との関わりは少なかった。今後のアート事業の検討と並行して、市内各地域の人や魅力、資源等を整理していくことも肝要であるといえる。

以下に、全3回の意見交換の内容を取りまとめた。

- | | |
|---|---------------------|
| ■ | : 意見交換会全体を通じた意見のまとめ |
| ◇ | : 意見交換会の各回で出た意見のまとめ |

○現在の「くにたちアートビエンナーレ」をどう考えているか-----

■「くにたちアートビエンナーレ」の認知度が低い

- ◇くにたちアートビエンナーレがどのようなものか知らない人が多い
- ◇くにたちアートビエンナーレが認知されていない

■「くにたちアートビエンナーレ」の目的や意義が不明瞭である

◇くにたちアートビエンナーレの目的がどこにあるのか分からない

■市民にとってのアート事業になることができていない

◇「くにたちアートビエンナーレ」に市民の関与が少ない

◇野外彫刻展の設置のプロセスに問題がある

◇アート事業をより良い方向に導く為に、地域の人々の声に耳を傾けた方が良い

◇市民がファンになるような仕掛けが野外彫刻展にあると良い

■野外彫刻は街の景観やまちづくりへの配慮をした方が良い

◇野外彫刻展の設置場所には景観やまちづくりへの配慮が必要である

◇生活空間と美術館とではアートを鑑賞する人の姿勢が異なる

◇アートは怖いものでもある

◇野外彫刻展の設置場所を考えた方が良い

■野外彫刻との日常の接し方が分からない

◇野外彫刻との日常の接し方が分からない

■「Play me, I'm Yours」は参加しやすいものであった

◇関連事業「Play me, I'm Yours」は参加しやすいものであった

○これからの「くにたちアートビエンナーレ」をどうしていきたいか -----

■市民がアートに自発的に関わる環境づくりが肝要

◇くにたちアートビエンナーレを市民の自発性が生まれる機会にできると良い

◇「くにたちアートビエンナーレ」に市民の関与を多くできるとよい

◇国立市民がアートに当たり前に親しむ環境づくりが必要である

◇人を育てる視点が必要である

◇国立市民と主催者の結びつきを強め、市民が参画できるようにしたい

◇国立市文化芸術条例に沿ったアートにして欲しい

■「くにたちアートビエンナーレ」を広義のアート事業にしたい

◇「くにたちアートビエンナーレ＝野外彫刻展」という関係を外したい

■「くにたちアートビエンナーレ」を様々な施策の横串として機能させたい

◇くにたちアートビエンナーレは様々な施策の横串となり得る存在である

■国立の文化的な側面を盛り上げる取り組みになると良い

◇国立の文化的な側面を盛り上げる取り組みになると良い

■まちでアーティストを育てる環境が欲しい

◇アーティストの制作拠点が国立市内にあると良い

◇アーティストを育てる場が市内に増えると良い

◇野外彫刻展は作家を育てる機会になると良い

■くにたちの回遊性を生み出すきっかけにしたい

◇パブリックアートやアートスポットを回遊しながら国立を巡れるようにしたい

■野外彫刻展のあり方を再検証する必要がある

◇野外彫刻展のあり方を再検証する必要がある

◇野外彫刻展のテーマを「国立」にしてもらえないか

◇くにたちアートビエンナーレで実施する内容は絞り込んだ方が良い

【その他の意見】

◇国立にはギャラリーが多い一方、市民とのつながりは薄い

◇ギャラリーの新規参入のメリットが薄いまちになっている

◇国立の賑わいを生み出すことに肯定的な意見ばかりではない

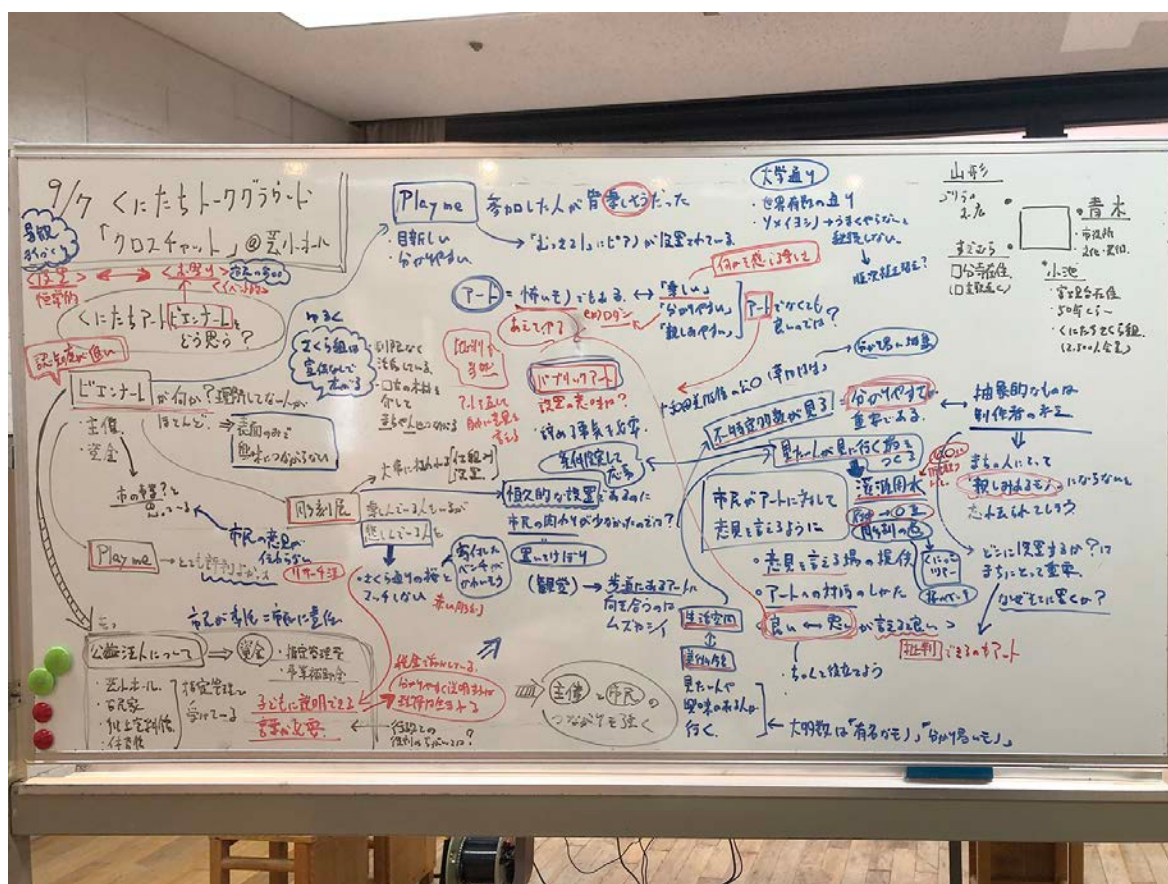
各回のまとめ

第1回

【日 時】2018年09月07日（金）10:00～12:00

【場 所】くにたち市民芸術小ホール アトリエ

【参加者】4人



◇ : 意見交換会の各回で出た意見のまとめ

・ : 参加者の意見

◇ 「くにたちアートビエンナーレ」がどのようなものか知らない人が多い

- ・ 主催者が誰なのか知らない、予算がどこから出ているのか知らない
- ・ 認知度が低く、何をしているのか分からないという意見が多い
- ・ 目的や意義がどこにあるのか分からない為表面的な部分しか見えず、深い理解や興味にながっていない

◇ 「くにたちアートビエンナーレ」に市民の関与が少ない

- ・ 指定管理者として財団が入っており、市民の税金で動いているはずなのに、市民の意見が伝わっていないのではないか
- ・ 市民が委託＝市民にも責任があるのだから、ちゃんと関与する仕組みが欲しい
- ・ アートであれば批評や批判が出てくるのは当然であり、対話する場面をもっと増やすことが必要である

◇ 野外彫刻設置の検討プロセスに市民の関わりが薄いことに問題がある

- ・ 設置が恒常的に行われるものなのに、検討プロセスへの市民の関与が少なかったことが残念である
- ・ くにたちアートビエンナーレのコンセプトに反し、市民にとって身近なアートとなっておらず、置いてけぼりになっている印象がある
- ・ 一度野外彫刻展を辞める勇気も必要ではないか

◇ 野外彫刻展の設置場所には景観やまちづくりへの配慮が必要である

- ・ 野外彫刻の設置場所は、景観やまちづくりへの配慮の視点が足りていない
- ・ 桜通りの赤い彫刻はサクラの季節の風景にマッチせず、悲しんでいる人もいる
- ・ 恒常的に設置することはしょうがないので、大切に扱われる仕組みやルールを作るべき

◇ 関連事業「Play me, I'm Yours」は参加しやすいものであった

- ・ Play me, I'm Yoursは参加した人や鑑賞者が皆楽しそうであった
- ・ 目新しいものであり、参加しやすさ、楽しさがあった
- ・ むっさ21に設置されたピアノは、商店街の意思で恒常的な設置となっている

◇ 生活空間と美術館とではアートを鑑賞する人の姿勢が異なる

- ・ パブリックアートは不特定多数の人が見ることになり、アートに触れることを強要されることにもつながる
- ・ 歩道の脇などにパブリックアートがあっても鑑賞する気持ちで向き合うことは難しい
- ・ パブリックアートには「分かりやすさ」「親しみやすさ」が必要な場合がある
ex) 十和田現代美術館の草間彌生氏が手がけた広場は街に自然と馴染み親しまれている
- ・ 箱根彫刻の森美術館など、美術館はアートを鑑賞する心構えを持って訪れる
- ・ 美術館に置かれているものの大多数は有名なものであり、分かりやすいものである
- ・ 住民にとって親しみのあるものにならないと、徐々に忘れ去られてしまう

◇ **アートは怖いものでもある**

- ・アートは怖いものであり、身構えてしまうものでもあり、そこから自分なりの考えを持つものである
ex) ロダンの作品
- ・楽しさ、分かりやすさ、親しみやすさを前面に出すならアートでなくても成り立つ
ex) 柴又駅前の両津勘吉像
- ・くにたちでなぜパブリックアートが必要なのか、改めて考える必要がある

◇ **国立市民がアートに当たり前に親しむ環境づくりが必要である**

- ・市民がアートに当たり前に親しむ環境づくりが必要である
- ・市民がアートに対して意見を言えるようになると良い
- ・市民同士が対話できる環境や場が生まれると良い
- ・あるアートに対する「良い」「悪い」を言えるようになると良い

◇ **国立市民と主催者の結びつきを強め、市民が参画できるようにしたい**

- ・野外彫刻展＝まちなかのアートへの市民の参画や協働のしくみが生まれると良い
- ・あいちトリエンナーレや越後妻有トリエンナーレ等では、住民がアートの解説を担当し、自分なりにアートを理解し、興味を深めている

◇ **野外彫刻展の設置場所を考えた方が良い**

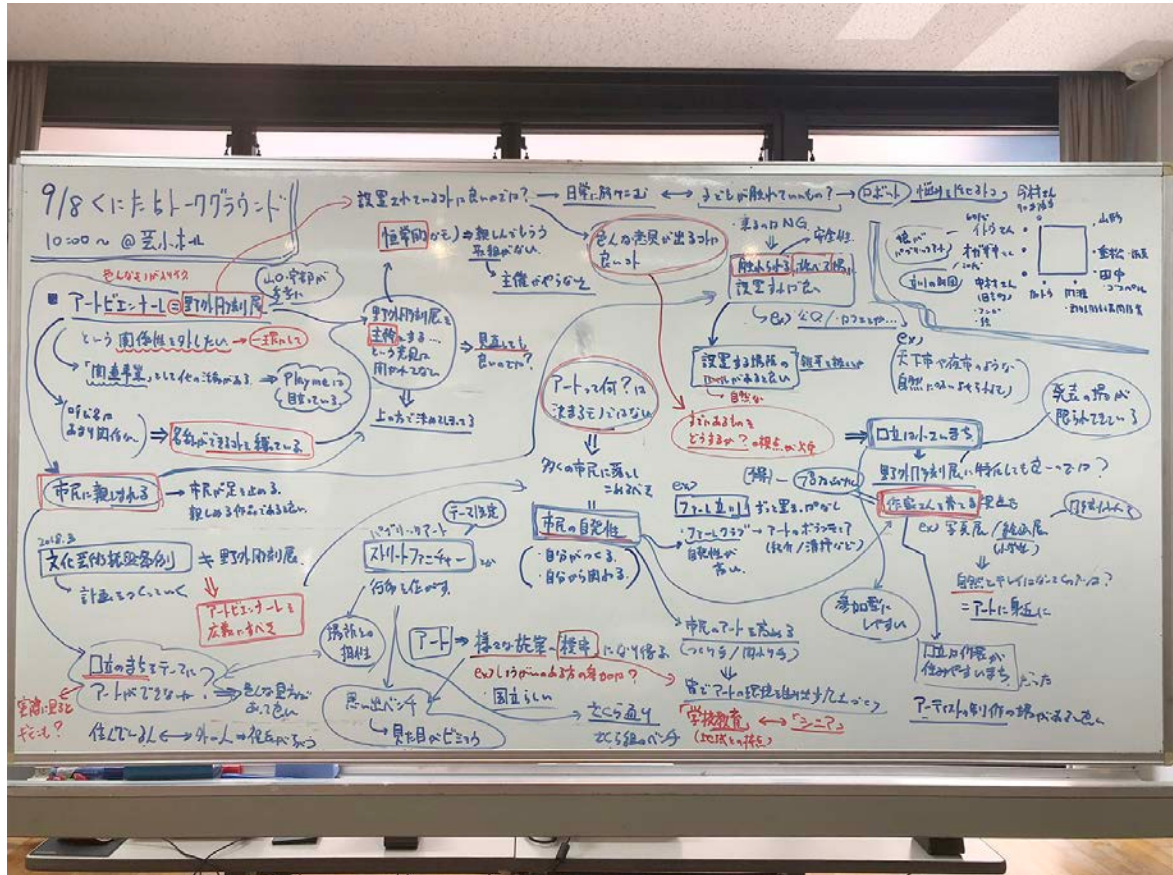
- ・野外彫刻展の次の設置場所が決まっていなければ、見たい人が見にくい場所に設置してはどうか
- ・国立と府中を流れる灌漑用水のある道を「彫刻の道」としてみてはどうか
→くにっこのバスツアーを実施したり、ベンチを設置するなど整備できると良い

第2回

[日 時] 2018年09月08日 (土) 10:00~12:00

[場 所] くにたち市民芸術小ホール アトリエ

[参加者] 9人



◇ : 意見交換会の各回で出た意見のまとめ

・ : 参加者の意見

◇ 「くにたちアートビエンナーレ=野外彫刻展」という関係を外したい

- ・ 野外彫刻展が主幹事業であることの是非が市民に問われぬまま現在に至っており、市民のアートになっているとは言えない
- ・ 様々なアートや参加型の企画を交えたアートビエンナーレにしていきたい
→ 現在は参加型企画が関連事業として行われているが、Play me は好評であった

◇ **くにたちアートビエンナーレで実施する内容は絞り込んだ方がよい**

- ・国立は小さな街で資金や人手に限りがあるので、野外彫刻展だけなど、コンテンツを絞り込んだ方がよい
- ・あえて野外彫刻展に特化することを考えてはどうか

◇ **くにたちアートビエンナーレは様々な施策の横串となり得る存在である**

- ・アートビエンナーレは様々な施策の横串となり得る
- ・国立市が縦割りでやっている様々なジャンルの施策を横串につなげる役割を担えるのではないかな
- ・しょうがい者の参画を考えられるとよい
- ・地域との接点づくりとして学校教育との連動も考えて欲しい
- ・子どもだけでなく、多勢を占める高齢者も親しめるような企画にしたい
- ・まちづくりや風景づくりとの連携を考えられるとよい
 - 「思い出ベンチ」の施策はよかったが、置かれるベンチが景観にそぐわない
 - ストリートファニチャーをテーマに野外彫刻展をやってもよいのではないかな

◇ **野外彫刻との日常の接し方が分からない**

- ・生活空間に設置されているが、触れたり遊んだりしてよいのかわからない
 - 子どもが登ったりするのがよいかな否か判断できない
- ・設置場所には配慮した方がよい
 - 公園や公共の場に設置するのであれば、触れることを可能と分かるようにして欲しい

◇ **野外彫刻展のテーマを「国立」にしてもらえないかな**

- ・国立をテーマにアートしてもらうことはできないかな
- ・様々な視点から国立のまちが見えるような展示になるとよい

◇ **野外彫刻展は作家を育てる機会になるとよい**

- ・彫刻作家の発表の場が限られてきており、設置されること自体が悪いわけではない
- ・作家を育てる視点が生まれるとよい

◇ **アーティストの制作拠点が国立市内にあると良い**

- ・ アーティストの制作拠点が国立市内にあると良い
 - 「宇フォーラム美術館」のコンセプトはこれに近い
- ・ かつての国立は作家が住みやすい街だったと聞いている

◇ **市民がファンになるような仕掛けが野外彫刻展にあると良い**

- ・ 市民に自然と親しまれるようなしくみがあると良い
- ・ 作家と作品のファンを生み出すことも必要ではないか
 - ex) 作品を入れた写真コンクールの実施
 - ex) 作品を題材にした小学生による絵画コンクールの実施

◇ **国立市文化芸術条例に沿ったアートにして欲しい**

- ・ 平成30年4月に施行された国立市文化芸術振興条例の内容に沿うのであれば、くにたちアートビエンナーレを野外彫刻展だけではなく、もっと広義に捉えていくべきである

◇ **くにたちアートビエンナーレを市民の自発性が生まれる機会にできると良い**

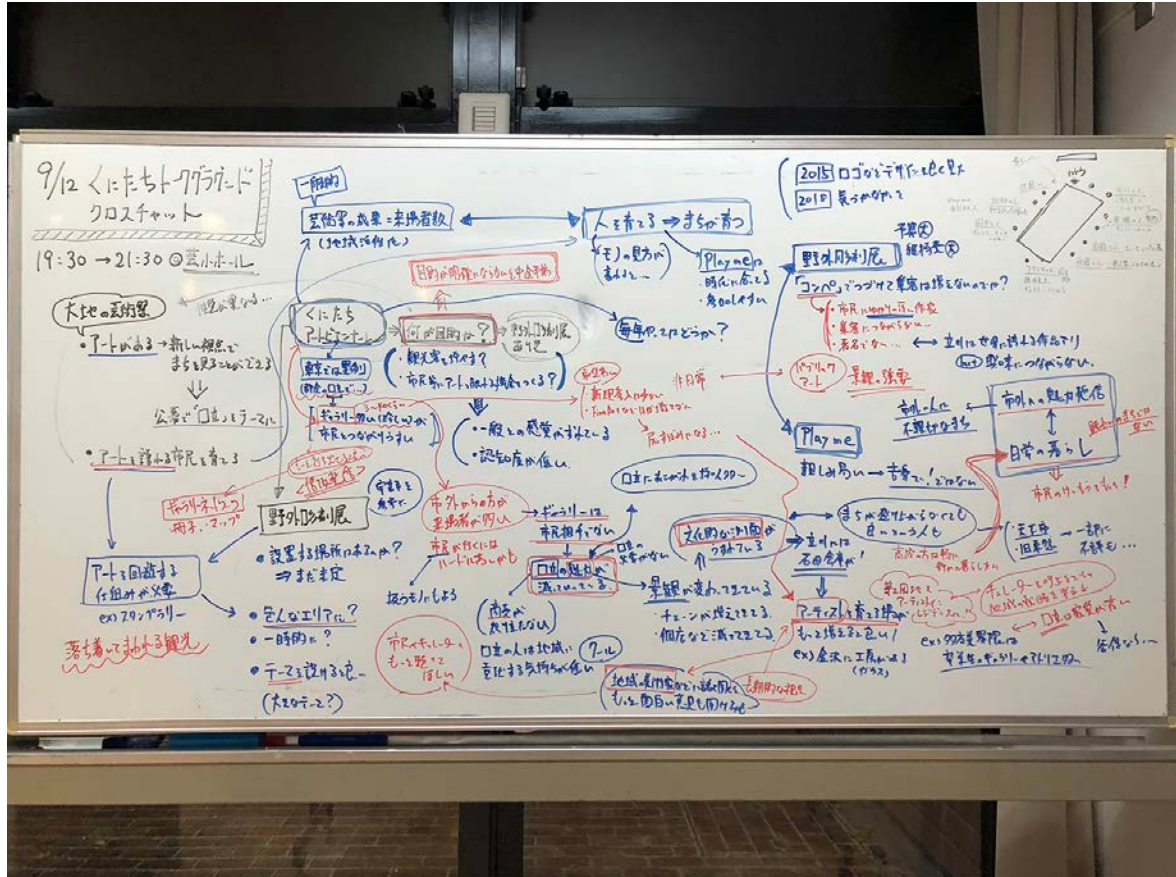
- ・ 市民の自発性が生まれる機会にしたい
- ・ 市民が制作に自ら参加する、または市民が関わる機会を増やせると良い
 - ex) ファーレ立川では市民ボランティア「ファーレ倶楽部」があり、アートツアーや清掃、研修旅行などを行って自発的にアートを伝える活動をしている
- ・ 市民とアートをもっと近づけたい
- ・ アートに触れることに抵抗のない環境を生み出したい
- ・ 時間をかけて徐々に愛着を育んでいくようなプログラムが必要である

第3回

[日 時] 2018年09月12日 (火) 19:00~21:00

[場 所] くにたち市民芸術小ホール アトリエ

[参加者] 10人



◇ : 意見交換会の各回で出た意見のまとめ

・ : 参加者の意見

◇ くにたちアートビエンナーレが認知されていない

- ・ 2015年の第1回はロゴやデザイン等を街中で見かけることが多かったが、2018年は気付かぬうちに進んでいた
- ・ くにたちアートビエンナーレを毎年行ってはどうか

◇ くにたちアートビエンナーレの目的がどこにあるのか分からない

- ・くにたちアートビエンナーレの目的はどこにあるか
- ・「芸術祭」は一般的に過疎地域の活性化を目的としており、成果は来場者数で計られる
→大地の芸術祭は過疎地域にアートがあることで、新しい視点でまちを見てもらえたことに意義がある
- ・観光客を増やすことなのか、市民等がアートに触れる機会を増やすことなのか、目的を明確にしないと中途半端なものになってしまう。
→東京での実施はアート業界でも異例であると捉えられている
→なぜ都会の国立で行うのか、その意義を再確認すべきである。

◇ 野外彫刻展のあり方を再検証する必要がある

- ・野外彫刻展をまた行うのなら、国立をテーマに実施してはどうか
- ・野外彫刻展は予算が大きく維持費も大きい、コンペ形式で行なっても来場者数には繋がっていないのが現状である
→市民とのゆかりの薄い作家ばかりで馴染みがない
→一般的には著名でない作家であることから集客に繋がらない
- ・パブリックアートは景観の強要である
- ・野外彫刻展をまた行うのであれば、設置するエリアを考えた方が良い
- ・一時的に設置するようなアートも考えられるのではないか
- ・立川には世界的にも誇れる作品があるが、やはり人の興味に繋がっていない

◇ 人を育てる視点が必要である

- ・国立でアート事業を行う場合には、人を育てる視点が必要なのではないか
- ・人を育てることが街を育てることにつながるのではないか
- ・アートを語る市民を育てることが必要である
- ・Play me, I'm Yoursは参加型であることが時代に合っているものだった

◇ パブリックアートやアートスポットを回遊しながら国立を巡るようにしたい

- ・パブリックアートやアートスポットを回遊できる仕組みが欲しい
ex) スタンプラリー
- ・国立は「落ち着いて回遊できる」ことが観光なのではないか
- ・市外の人に対して不親切な街になっており、魅力の発信をしていきたい

◇ **国立にはギャラリーが多い一方、市民とのつながりは薄い**

- ・ 国立市内はギャラリーが3～40箇所と非常に多いことが特徴である
 - ギャラリーが多いことをもっと打ち出すことはできないか
- ・ ギャラリーと市民のつながりは薄く、市民側を向いていないのが現状
 - ギャラリーは市外からの来場者が多いのが実情である
 - ギャラリーは市民が行くにはハードルが高いと感じるかもしれない
 - 器を扱っているギャラリーなどもあり、扱うものよるところではある

◇ **ギャラリーの新規参入のメリットが薄いまちになっている**

- ・ ギャラリーは多いがファインアート系はほぼ増えておらず都心に負けている印象がある
- ・ 国立市は家賃が高い為、新規参入者は少ない状況であり、今後尻すぼみになる

◇ **国立の文化的な側面を盛り上げる取り組みになると良い**

- ・ 国立の街は景観が変わり文化的な雰囲気にも変化が生じてきている
 - チェーンのお店が増え、個店が減ってきている
- ・ 国立の文化的な側面が薄れてしまっていることを課題として、くにたちアートビエンナーレがその空気感を変え、盛り上げる取り組みになると良い

◇ **国立の賑わいを生み出すことに肯定的な意見ばかりではない**

- ・ 閑静な住宅地としての国立に魅力を感じている人は、街の盛り上がりを良く思っていない人が多い
 - 天下市や旧車祭等も一部の市民には不評という話がある
- ・ より多くの市民の理解を得る為にも、目的をはっきりとさせた方が良い

◇ **アーティストを育てる場が市内に増えると良い**

- ・ アーティストを育てる場がもっと増えると良い
 - ex) 金沢のガラス工房は全国の若手工芸家に開かれた創作活動の場となっている
- ・ 富士見台団地の一部をアーティストインレジデンスとして開放できないか
- ・ キュレーターを招致するなど、地域にアートを根付かせる戦略を持ち、長期的に育てて行く環境づくりが肝要である
- ・ 国立駅界隈は家賃が高い為、谷保駅界隈なら可能性ではないか
- ・ 比較的近隣にある武蔵野美術大学の学生が拠点とできる街になると良い
 - ex) 多摩美術大学の界隈には、卒業生のギャラリーやアトリエ等が多い

◇ **アート事業をより良い方向に導く為に、地域の人々の声に耳を傾けた方が良い**

- ・ 地域の美術家やキュレーター等に話を伺う機会を増やすと、もっと想像的な意見が聞けるのではないかな
- ・ 市民の声ももっと吸い上げていった方が良い